

第5期宮前区区民会議第2回会議

第5期宮前区区民会議第2回会議

- 1 日 時 平成26年8月29日（金）午後6時
- 2 場 所 宮前区役所 大会議室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 宮崎委員長、川田副委員長、佐々木副委員長、青木委員、大木委員、中里委員、大槻委員、本郷委員、笹川委員、山田委員、黒澤委員、滝本委員、川畑委員、青柳委員、太田委員、小田委員
 - (2) 参 与 竹田参与
 - (3) 事務局 区長、総務課長、区民サービス部長、向丘出張所長、こども支援室長、道路公園センター所長、生涯学習支援課担当部長、企画課長、企画課企画調整担当係長、企画課まちづくり支援担当係長、企画課企画調整担当職員
- 4 議 事
 - (1) 審議経過の報告
 - (2) 専門部会発足について（メンバー決定、運営方法、議事内容等）
 - (3) 意見交換
 - (4) 今後のスケジュール確認
- 5 傍聴者数 1人

午後6時開会

1 開会あいさつ

司会（岩佐） 皆さん、こんばんは。それでは、定刻となりましたので、これより区民会議を開催させていただきます。本日の進行を務めます宮前区役所総務課長の岩佐でございます。本日、副区長が不在でございますので、代理を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。恐縮ではございますが、ここで着席をさせていただきます。

それでは、会議開催に先立ち事務連絡をさせていただきます。本日の会議開催に当たりまして、この会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき公開とさせていただきます。したがって、傍聴、報道機関等の取材許可をしておりますので、御了承いただきたいと存じます。

また、会議録の作成に当たり、速記者に同席をいただいておりますので、よろしくお願いいたします。

そして、本日発言のございました方々につきましては、後日議事録の確認をお願いしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。なお、確認後の議事録は区役所ホームページへ掲載させていただきます。

また、傍聴の方々につきましては、遵守事項をお守りいただき、本日の会議に関するアンケートへの御回答をあわせていただきたいと存じます。

次に、本日の委員、参与の出席状況等について御報告いたします。区民会議委員につきましては、葛西委員、田辺委員、鈴木委員、細谷委員が御欠席の連絡を事前にお知らせいただいております。参与につきましては、本日、竹田参与に御出席をいただいております。

また、山田参与、田村参与、土居参与からは事前に欠席される旨の御連絡をいただいております。

続いて、議事に先立ちまして、野本宮前区長から一言御挨拶を述べさせていただきます。

区長 皆様、こんばんは。何だか急に涼しくなって、夏から一気に秋が来たという感じでございますが、皆様、お体のほうは風邪などひかれていらっしゃいませんか。私も急に涼しくなっちゃって、お布団を出さなくちゃとか、そんなことを考えながら暮らしている日々でございます。

実は最近、母がちょっと体調を崩しまして、一人暮らしなんです。お布団を出さなくちゃという時期に慌てて実家のほうに行って、上の段から重たいお布団をおろすというようなことをしながら、こうして人間って、私が小さいときに育ててもらった、そしていつかまたサイクルといいますか、それが徐々にできなくなるという時が来るんだなというふうに、つくづく感じたところでございます。

この区民会議ではこれから、高齢社会をみんなでどうやって支えていくかですか、あるいは次世代のまちづくりといったテーマが取り上げられると聞いていますけれども、そういう意味で、本当の豊かさ、例えば、こういう洋服が着たいとかこういうバッグを買いたいとかいうのはお金で解決できることだけれども、本当に人間にとって必要なものというのは実は個人的には解決できないことが多いんだな、こうして母が一人で地域で暮らしていけるには、やっぱり地域が安全でなくてはいけないし、ある意味バリアを超えられるような何かがないと、暮らしていけないんだということに気がつきました。この区民会議が一人でお金で解決できるような問題だけではない、何かみんなで協働して、いい地域社会、人間がいつまでも暮らしていける地域社会をつくるための大きなツールになっているんだ、いくんだということを感じている次第です。

本日の区民会議が、いい地域社会をつくっていく上でますます実りのある議論となりますように願っております。一言御挨拶とさせていただきます。

司会（岩佐） ありがとうございます。

続きまして、本日皆様のお手元に配付してございます資料の確認をさせていただきます。確認をよろしくお願いたします。

まず初めに、本日の会議次第でございます。

1 ページおめくりください。下のほうにページ数を振っております。1 ページでございます。座席表でございます。

次の2 ページでございます。委員、参与、事務局名簿でございます。

続きまして、3 ページから6 ページまでになりますが、第5期審議課題の選定経過についての資料になっております。

続きまして、7 ページでございます。区民会議専門部会所属希望アンケート結果でございます。

次の8 ページでございます。区民会議平成26年度審議スケジュールとなっております。

次に別紙の説明をさせていただきます。別紙1でございます。地域課題把握アンケート集計結果でございます。第1回、前回の全体会で配付したものと同一内容でございます。

続きまして、別紙2、こちらはA4で横の資料になりますけれども、宮前区区民会議提案の地域課題対応事業化等の状況でございます。

続きまして、別紙3でございますが、こちらは専門部会、第3回全体会の日程調整表でございますので御確認ください。

以上が本日の会議資料でございますが、落丁等ございましたらお申出ください。皆様、よろしいでしょうか。

それでは、これより第5期宮前区区民会議第2回全体会を開催いたします。これからの進行は委員長にお願いしたいと思います。宮崎委員長、よろしくお願ひいたします。

宮崎委員長 それでは、どうも皆さん、こんばんは。雨の中、お越しいただきましてありがとうございます。

2 議 事

- (1) 審議経過の報告
- (2) 専門部会発足について（メンバー決定、運営方法、議事内容等）
- (3) 意見交換
- (4) 今後のスケジュール確認

宮崎委員長 それでは、議事を進行させていただきます。

今回の全体会では部会の立ち上げを行うこととなりますが、まず、4月からスタートした第5期区民会議がどのように審議を行い、今日に至ったかを御説明することになります。資料は3ページ以降になります。この後、川田副委員長さんによる説明を

お願いするんですが、その前に、先般大槻委員さんから、宮前区のインフラ整備に関する問題提起がなされましたが、私どもとして、区民会議の性格からいって、川崎市の傘の中で我々区民会議なるものが成り立っているわけで、その傘そのものをいろんな角度から議論するというのはちょっと区民会議の性格上なじまないと考えておりました。それで、大槻委員さんの件は改めて別の場で私がしっかり対応すると、特に区民会議のOBの方々等々で、今後どうやるかは別として、そんな方向で対応したいと思っておりますので、皆さん、御理解のほど、お願いいたします。

それでは、川田副委員長さんをお願いいたします。

川田副委員長 皆さん、こんばんは。

それでは、ただいまより審議経過の説明をさせていただきます。宮前区の地域課題について、本日の会議に至るまでどのように議論を進めてきたかについて御説明いたします。配付資料の3ページがこれまでの議論の過程をまとめたものでございます。まず、4月3日に開催しました区民会議発足前の事前打ち合わせ会において、委員の皆さんにふだん感じている地域課題についてのアンケートを実施しました。その結果を4月25日の第1回全体会で発表しました。ここでは48項目の課題が提示されました。課題の一覧は4ページ表Aにございます。第1回全体会では、各課題を挙げた委員の皆さんからの御説明もいただきました。また、これらの課題について準備部会において整理し、今期区民会議での審議テーマを決定していくことを確認しました。

さて、その準備部会の第1回目は5月26日に開催しました。ここでは、既に実施しているものや重複した課題を整理し、48個から33個にしました。また、事務局からの1つの例として、これから審議テーマを絞り込んでいく上で参考となるように大きく2つに分類し、整理してみました。これが5ページの表Cにあるような身近な課題と次世代を考えた課題という分類です。準備部会ではこの分類に賛同される委員の方が多く、この身近で短期的な課題と次世代を見据えた長期的な課題という2つのテーマを根底として議論が進められました。そして、最後に具体的なテーマを決めるために、委員の皆さんに取り上げるべきと思うテーマを2つずつ投票していただきました。この結果を第2回準備部会で発表しました。

6ページの表Dになります。ここでは、これまで8つあった課題の分野を再編し、5つにしております。票数で見ると、高齢者に関する課題と宮前区の歴史・文化遺産の選定という2つの課題がピックアップされました。この2つを審議テーマとする方向で議論を進めましたが、第2回準備部会では結論に至りませんでした。また、中長期的な課題を考えていく上で、川崎市が策定した川崎市都市計画マスタープランについて勉強会をしたいという意見があったため、第3回の開催を決定しました。7月の第3回準備部会では、まずマスタープランについての認識を共有した上で、第2回の議論の続きを行いました。高齢者に関する課題は、委員の皆さんもいつも感じていら

っしゃることですが、しかし、国や市でも策定を講じており、区として行うことがあるかという意見も出ましたが、急速に進む宮前区の高齢化、一方で要介護認定率が低いなど元気な高齢者がたくさんいるという現状を踏まえ、区独自の課題解決は必要だという結論になりました。また、魅力発信についても、行政や民間で既に実施しているものもありますが、それでもまだ知られていない魅力があり、若者の流出を防ぐために、魅力をさらに高め、発信していく必要があります、そしてそれは次世代のまちづくりにもつながるということから、魅力発信とともに、次世代を考えていこうということになりました。

こうして高齢者問題を核に、分類AからCを1つのテーマとした高齢者問題に関する取り組みの部会と、分類D、Eをまとめた魅力発信と次世代まちづくりの部会で審議を進めていくことを確認しました。

各部会で議論していく内容は、この票数にとらわれることなく、改めて部会の委員の皆さんで話し合い、区民会議で解決できる課題であるか、必要性が迫っているか、具体的な解決策は見出せるかななどを考慮しながら、第5期区民会議の提案としてまとめるべく進めていくこととなります。

以上で今期区民会議の本日までの審議、経過報告を終了いたします。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの報告に基づいて、高齢者問題に関する取り組みの部会、通称高齢者部会と呼びます。それから、魅力発信と次世代まちづくりの部会を通称次世代部会として、さらに、委員長、副委員長、各部会長から成る企画部会の3つの部を設立し、今期区民会議の審議を進めていきたいと思えます。

そして、各部会の所属メンバーは、アンケートの回答をいただいた結果をもとに、事務局と委員長、副委員長により検討した結果、7ページにありますような構成とさせていただきます。

部会設立とメンバー構成について、委員の皆さんの御了承を得たいと思えますが、いかがでしょうか。

御意見がないようでございますので、御了承いただいたと感じております。

それでは、所属部会での抱負、第1回部会の審議テーマについての意見交換に移らせていただきます。

それでは、まず実際に専門部会でどのようなことを話し合っていきたいか、また具体的な提案内容などについて御意見をお持ちでしたらお伺いできればと思えます。まず部会ごとに進めていきたいと思えますので、最初は高齢問題に関する取り組みの部会のメンバーから御意見をお願いいたします。

それでは、右側の青木さんから。

青木委員 先ほどからお話に出ていますように、急速に進む高齢化の中で、来年度から介

護保険も改正されます。非常にやることはいっぱい、行政と地元が連携してやっ
ていかないと対応できないんじゃないかと思っています。これからどんどん公助が減退し
て自助の方向にやっついていかないと、すごく心配しております。

以上です。

宮崎委員長 ありがとうございます。どうぞ。

大木委員 大木でございます。よろしく申し上げます。

うちの家でも今90歳の義理の母なんですけれども、私と女房と3人で住んでおりま
す。いろんな出張サロンだとかデイサービスもあるんですけども、デイサービスが
今介護2で、月曜日、木曜日、土曜日の週3回行っているんですけども、行ってい
るときはいいんですけども、行かない日があるわけですね。そういうときに、一緒
に私たちもいられませんので、仕事に行ったり買い物に行ったり用事があったり、そ
ういうときに、結局90歳ですから、やっぱりテレビを見ていても、耳が遠いと聞こえ
ないし、意味もわからないし、一番いいのは誰かが1人つきっきりでいて相手をして
くれる人がいれば一番いいんでしょうけれども。あとは1時間置きとか2時間置きに
近所の人にちょっと見てもらうとか、そういう形がいいとは思うんですけども、な
かなかそういうふうにはいかないと思います。これから先どうなるんだろうと私も心
配しているところでございます。

以上です。

宮崎委員長 どうもありがとうございます。

それでは、次、笹川さん。

笹川委員 私どものほうの宮前区文化協会というところから私は出ておるんですけれど
も、この前もお話ししましたけれども、何せ高齢化が進んでいるという、確かにそう
なんですね。80歳過ぎてもまだ踊っている、歌っているという元気のいいおばあちゃ
ん、おじいちゃんがおられます。ですから、そういう人が、老若男女を問わず、こう
いう芸術的なものに入ってくださいというようなことになれば、大変な今の1人でこ
もっているおじいちゃん、おばあちゃんが表に出させていただいて、みんなのそういう輪
の中に、うちのほうの文化協会に入ってもらえば一番いいことなんですけれども、そ
ういう活動を今進めている最中でございます。これからもまたそのような形で進めて
いきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

宮崎委員長 どうもありがとうございます。

続きまして、川畑さん。

川畑委員 川畑です。私は高齢者に応募したんですけども、自分の義理の父とか母も高
齢になりますし、あとは高齢化問題というのは、やはり当然子供とか若者も含めて支
えていかなくちゃいけないかなというところがあります。あと、やはり私自身もその
仕事にずっと携わってきている一住民としても、仕事に携わる人間として、先ほどデ

イサービスの話をしてしまったけれども、来年要支援の方々が外れていくとなると、ますます閉じこもりになっていって介護状態になっていくのではないかとというのが懸念されますので、この問題については、やはり自助、公、市町村とも一緒になって新しい仕組みをつくっていかなくちゃいけないと思っていますので、そういうものがやればいいかなと思っています。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。

続きまして、太田さん、お願いします。

太田委員 太田でございます。私は青木さんと御一緒の宮前区社会福祉協議会の理事として仕事をさせていただいたりして、現在、ボランティア活動振興センターの運営委員長を務めております関係でいろいろな企画を立てるんですが、その中で、昨年度やりました認知症カフェというところから、高齢者の認知症の皆さんの居場所づくりということを実際お話を聞いてみましたら、こういった居場所はいっぱい必要なんじゃないか、やっぱり元気で家から出られる体制をつくってあげる、そういうことにかかわってまいりましたので、そんな情報を生かしながら、ぜひ発言をさせていただきたいと思っています。

私自身、障害者の母でもありますので、高齢者の皆さんがいい環境ができれば、障害者の方にも少しい環境がおすそ分けがいただけるんじゃないかなというふうにも思っておりますので、よろしく願いいたします。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。鈴木さんがまだお見えじゃないものですから、時間の関係もありますので、後で来られたときにそれぞれお話ししていただくということで、中里さん、お願いします。

中里委員 宮前区というのは、前回の全体会でもお話ししましたけれども、都会的で緑も多いということで、皆さんもそういうふうに感じているんじゃないかと思えますけれども、そんな中で人口がふえてきますと、また緑も少なくなって宅地化もふえてくるということで、何とか皆さんと古いものを大事にしていかなければ、都会でありながら、また古いものも大事にしていかなければいけないんじゃないか。そうすることによって、住民がこの宮前区を愛して郷土愛が生まれて、宮前区を愛すると、またそこを大事にするという、地域を大事にして、そうしますと、また犯罪も減るだろうしということで、とにかくコミュニケーションが大事なのではないかなと思います。それにつきまして、まずはその方法としまして、宮前区に残る古いものを大事にしながら、そういうものを育てていって、またコミュニケーションを皆さんでできるような形でいい町になればいいかなと考えております。

以上です。

宮崎委員長 ありがとうございました。

それでは、次、大槻さん、お願いします。

大槻委員 私の問題としては、この間お話ししましたように、自治基本条例の22条に示すような宮前区の基本的な課題はインフラ問題だと思っているんですけども、先ほど委員長からお話がありましたように、別の場でいろいろ考えるべきであるということで、それは別の場といたしまして、なるべくそれに近い部会ということで次世代を希望したわけであります

ここにありますように、宮前区の魅力発信というようなこともありますけれども、発信して、本当に外部から宮前区が魅力ある地域だということで、いろいろな人が集まるような地域にできるのかどうか、そういうような地域にしていけないといけないだろうということ。それから次世代ということでは、やはり若者が住み着くような地域にしていけないといけない。やはり高齢化は宮前区は非常に進んでいるわけでありまして、高齢の人々が健康で生活するということも非常に大事なんですけれども、やはり若者が集まるような地域になっていかないと、限界地域になってしまうというようなことでありますので、そういう両面からいろいろ取り組んでいかないといけないのではないかなと考えております。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。お願いします。

本郷委員 今回まちづくりということ、魅力をいかに発信するか、魅力づくりという観点で考えますと、10人の委員がそれぞれ推薦されることをまずみんなが意識を共有するために、歩いてみる、もしくは行ってみるというところからこの部会がスタートしたらどうかと、そこから次のものが出てくるんじゃないか、こんなふうに思っております。前回の区民会議でも、やはりそういうふうな方法を取りまして、各人の推薦する場所、公園を見て回った。そこからスタートしたということが非常に良かったような気がします。だから、今回もぜひそういうふうな現場をまず見るというところからスタートできればなと思っております。

以上。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。素晴らしいアイデアで、ありがとうございます。

山田委員 山田でございます。私は、最初の提案というか、テーマ提案では、高齢者の問題が非常に深刻だということを大分申し上げたんですけども、前の活動なんかを見ても、高齢者福祉の問題は随分取り上げられているんですね。それからまた今度新しいそれを見直していい方向が設定される可能性が非常に高いなと思っておりますが、私の出身というか、推薦母体の町内会の関係で言いますと、当然高齢者対策も非常に重要なのでありますけれども、次の世代、この地域を非常に魅力あるものに外にもPRしながら、外から来られる方も随分多い地域でございますので、そういうところにうまくPRして、町内会の活性化なんかにもつながっていけば素晴らしいと思います。最終的には、理屈だけじゃなくて、皆さんの区民の方が喜んでいろんな形

で参加していただけるような市民運動みたいなものが設定できれば最高だと思っています。

よろしくをお願いします。

宮崎委員長 ありがとうございます。沈黙は金なりみたいなところがあって、なかなか情報発信にはうといとか、やらないとか、そういう雰囲気と考えております。どうぞ。

黒澤委員 向丘地区自治会連合会の推薦を受けて委員になっております黒澤でございます。実は今山田さんのお話しされた、山田さんは宮前地区自治会連合会で、非常に考えの推移というのが自治会を主体とした考え方にすごく近いんですね。私は第1回から第4回まで大体高齢化問題をお話ししてまいりました。自治会の課題はどうであるかということは山田さんと同じようなことを言ってきました。

ところが、いろいろ第4期であるとか、あるいは川崎市の、前回いただきましたね。そういう資料をずっと読んでみまして、これだけ高齢化問題、福祉についての視点で取り上げていて、4年間、3期と4期連続して取り上げているわけですね。しかし、その取り上げた中で、私ども向丘地区では、向丘地区連合会の委員長、副委員長であるとか、上の方は全く知らない。知らないけれども、私どもの近隣自治会で高齢者対応については、民生委員を中心としまして、自治会長と地域の包括支援センター、この三つどもえでかなり進んでいるんですね。副委員長の川田さんも私と同じような近隣自治会ですので多分評価は近いと思うんですけども、そうすると、そういうところの問題をこれからやっていて、2年間果たして、かなりいっているからまあまあかなと。地域の自治会を主体とした考え方の中で課題はまだあるぞと。その中には、先ほど少子化問題、子供あるいは青年のそういうところの魅力づくりをしまして、そして、できるだけ魅力を発信することによって地域に戻ってきてほしいか、あるいはもっと入ってきてほしい。自治会の加入率について、私は自治会主体から、これは検討課題ということで当初お話ししました。

そこら辺の視点から考えると、魅力発信というところの捉え方で、もう既に皆さんずっと研究された、あるいは常識的な文化遺産はあるんですけども、その視点プラス自治会単位で何かそういうところの探し方というものを考えて、そういうところから私の出身の向丘地区自治会連合会にできるだけそういう情報をぶつけてみたいかと。そしてそういう情報がどの程度自治会連合会のほうに浸透していくのか、そういうところを、口で言うほどうまくはいかないと思うんですけども、この2年間試してみたい。

そんな形で、前回までは高齢問題は必ず私は丸印だったんです。ところが、前回からいろいろ資料をいただいてがらりと変わっちゃった。山田さんと同じように次世代のほうに向かいました。よろしく願いいたします。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。

それでは、滝本さん、お願いします。

滝本委員 私も、いろんな人に出会って取材をするうちに、自分が困っているなど思っていて口に出さなかったことも、周りの人も同じように困っていたですとか、あと私の友達の親が、この夏暑かったのでエアコンをつけてねと言っていたのに、クーラーじゃなくて暖房のスイッチを入れていたというのがあって、小まめに行っていたから気づいたけれども、これが2週間に1回とかだったら、字が小さいから見えないんだとか、そういう小さいことなんですけれども、私の世代では全然気づかなかった困ったことを、やはり当事者から見ると小さい字が気づかなかった。あと、私は今幼児と一緒に過ごすことが多いんですけれども、大人だと当たり前でできて気づかなかったことも、乳幼児と一緒に暮らしていると、何でこんなに町なかって困ることがあるんだろう。と同時に、その中で暮らしていると、こういうことを助けてもらったらすごく暮らしやすくなったとかそういうのがあるので、私は次世代のことを社会として考えると同時に、高齢者で困っていることを、今育っていく小学生や中学生と一緒に今ある問題を一緒に考えていくというふうに情報を集めて発信して、一緒に考える仲間として高齢者と次世代がそれぞれリンクしていくようにしていけたらと思います。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。

それでは、次、青柳さん。

青柳委員 青柳です。今いろいろなお話を伺ってみると、やはり私自身も次世代というほうで活動させていただきたいと思いました。それで、皆さん方も恐らく地域の中であつたかと思えますけれども、先日の8月の地域の盆踊り、これは自治会にしろ、町会にしろ、団地の中、そこで先週ありました太鼓ミーティングも、自分は6年ほど写真を撮りながらずっと参加しているんですけれども、そのときに思ったのは、魅力というのはこれだという気持ちをその場に行って感じましたね。それはもう言葉は要らないような、本当にその場での人との交流、先ほどもおっしゃられましたように、高齢者が元気な姿で踊りをやっている、文化協会のお話にしろ、地域の盆踊りの中でも、高齢のお年寄りが本当にもう着飾った形で輪の中に入って盆踊りをしている。これが本当に地域の魅力だな、本当の足元にある魅力だなという話をちょっとしたかっただんです。それが1つには、ある団地では、前準備なんかをしようとする設定の人たちがもう高齢化して、なかなかいないと、今回はやめにしようという話まで持ち上がったんけれども、やはり地域の人たちが本当にそれが後押しがあつたみたいなんです。それで2日間の盆踊りも無事に終わったということで非常に喜んでおりました。

ですから、やはり次世代、我々の世代もそうだし、また後に続く人たちも当然あの場に来て、小さなお子さんが来て、その自分のふるさとと思えるような宮前を恐らく感じたと思うんです。また、太鼓ミーティングに対しても、花火大会でちょっと合体

したんですかね。同日だったんだけど、やはり宮前の中には伝統的な太鼓という1つの伝統文化があるんですね。その文化を受け継いであのようなすばらしい団体が活動、そしてそれが幼稚園の子たちにも物として、形として、教育されているというよりも習うというんですか、受け継いでいる。もっともっとほかにも文化として残せるものがあるんじゃないのかなということを感じました。

これは宮前の観光協会で先日取材させていただいた、これは予測になりますけれども、中日本高速道路というのが東京料金所を管轄とした場所があるんです。あそこもPRがなければほとんど知らないのかなと自分も思いました。あの時点で行って見ましたら、やはりそのときにはサマーフェスタということで、お子さんとお父さん、お母さん、そういう人たちが、高速道路に関することだけなんだけれども、体験ができているんですね。それは高所作業車と言って、高速道路の上のほうとか、あるいは側面の芝を刈るものとか、あるいは表示車、事故が起きたときの表示とか、こっちへ行くとかいう、そういうようなものとか、ジオラマもすごいものが四季を通した形で10メートルほどの中に四季の高速道路の景色ですか、車の動き、全てそういうものがあるし、指令室なんかも見せてくれる。やはりそういうものが民間の会社なんかも含めて物づくりをされている会社が恐らくまだまだいっぱいあると思うんです。そういうものもやはり宮前区の魅力として発掘できるような気がしましたので、そういうものも自分なんかでもできる限り発信したいし、それを多くの人に見ていただいて、やはり宮前区内のそういうものを今まであったものと新しく出たものを同居させながら、町の活性化、強いて言うならば人の活性になると思いますので、それが相乗効果で交通の問題だとか、そういう地域的なものにも発展するかと思いますので、おもしろいものが見つかるんじゃないのかなと思いました。

長々申し上げました。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。

小田委員 青柳委員よりもうちょっと長くなるかもしれないんですが、ちょっと気をつけてまとめて話をしたいと思います。

最初の年度当初のアンケートのところで宮前区の魅力発信として自然遺産、文化遺産、歴史遺産というのを私は書いてみました。それから、先日の専門部会所属アンケートの希望のところでも次世代部会のところ、そのときに、私としてはどんなふうな魅力発信、次世代に残していけるようなすばらしいところを伝えていけるか、発信していけるかということ自分なりに考えてみました。本当はこれからお話しすることは部会でお話しするのがいいのかと思いますけれども、ちょっと具体的に話をさせていただきたいと思います。

部会の名前はまだ未定で決定されていないので、私の思い、要するにアンケートのところからの話になるかと思うんですけれども、例えば自然遺産の場合は、宮前区に

流れる大きな川、矢上川、平瀬川、有馬川がありますね。その中でそれぞれいろいろな川の自然などを守って保護していく、そういった活動をしている団体やグループが幾つもあります。それからとんもり谷戸とか南野川ふれあいのもり、菅生緑地、いろいろなものがありまして、珍しい植物、生き物、そういったものも小動物なども生息しています。そういったものは、地域の住民とか自治会、町内会、さまざまな自然を守るグループたちが活動してやっているもので、そういったものについて具体的に生き物マップなどをつくったらいいのではないかなと思いました。

文化遺産につきましては、まず自然遺産につきましては、要するに手つかずの自然というのは宮前区にはないんですよ。全て人間が守り育てて今あるような形になっています。文化遺産につきましては、現存しているものについて文化遺産として活用しているもの、そういうものを文化遺産、名前はもちろんこれから部会などに諮っていくので、名前をつけて言うということにつきましては私のひとりよがりもあるかと思えます。有形とか無形とかいうのがあると思うんですね。例えば神社等の季節の行事、奉納舞とか太鼓とか神楽、豆まきとかいろいろあると思えます。それから伝統を今に伝えているものとしませうね。あと、そういった建物に附属するものではないけれども、八木節保存会があつて活動しています。そういったものも文化遺産の中に入るかなと思えます。

それから、歴史遺産的なものとしては、これも有形と無形のものがあると思うんですけども、古代の遺跡とか建造物、古墳などが有形のもので、無形のものとしては、例えば史実、歴史的に宮前区のこの地域にはこういうことがあつたんだということ、あと、宮前区には随分たくさんの民話とか昔話などが語り伝えられているんですね。私はたまたまその本を手に入れることができまして、とても貴重なものなんですけれども、それを見ていましたら、たくさんの伝えられている民話があるということがわかりました。そういったものは、例えば絵本にするとか、何かそんなふうな形で残しておくことができるのではないかなと思いました。

これらのものについて協力してもらえるところは小学校の副読本ですね。周年行事で必ず副読本はつくりますので、それが各学校にあると思えます。それから市民ミュージアム、昔、持田春吉さんという方が有馬の考古学研究所というのをつくってましたよね。あれは今なくなってしまったんですけども、そのままその中に集めたものなどは市民ミュージアムに寄附されて、あちらのほうにあるということで、市民ミュージアムのほうにも学芸員の方々がそれぞれパートに分かれて研究されているということで、宮前区の歴史についても研究している部員の方々がいらっしゃるんですね。そういったところが協力していただける。あと、長く宮前区に住んでいる古老年の方々、そういった方々に聞くこともできるし、郷土史を研究している郷土史家も宮前区に在住していますので、そういった方々に協力してもらえないかな。

子供たちに自然を残していくと、高齢者にもやはり優しいもの、高齢者にもいい形でかかわってくるのではないかなと思います。それから、これらについても今まで何度も取り上げられてきているんですけども、方法とか視点とか、角度を変えて取り組めば、より宮前区の魅力がまた違った角度から発信できるのではないかなと思います。

以上です。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。これで一応一通り皆さんの御意見が出たかと思いますが、何かまだ言い足りなかった方とかもしおられましたら。まだ時間も少しありますので、予定より10分ほど早く終わっています。

それでは、次に進めさせていただきます。いろいろありがとうございました。皆さんからの御意見は今後の専門部会に引き継いで、より活発な審議が行われることを期待しております。構想計画レベルでどこに軸足を置いてそれぞれのテーマを膨らませていくかということで、これからが正念場につながるのではないかと考えております。

それでは、少し予定より10分ほど早いんですけども、続きまして、今後の区民会議の流れを御説明いたします。当面の進行は、第3回全体会での審議の内容について佐々木副委員長さんから御説明させていただきます。

佐々木副委員長 済みません、遅くなりまして。佐々木でございます。

まず、今後のスケジュールについて御説明させていただきたいと思います。お手元の資料の8ページをごらんいただけますでしょうか。一番最後のページ、8ページになりますけれども、こちらに26年度末までの進行案を提示しております。まず、きょうの全体会が終了しますと、次は9月8日に企画部会を開催します。本来企画部会というのは、委員長、副委員長、それと各部会の部会長で構成されますが、まだ部会長がこの時点では決定しておりませんので、委員長、副委員長の3名で行わせていただきたいと思います。

まず第1回目の企画部会では、きょうの全体会を受けまして、改めて専門部会及びメンバーの確認、そして各専門部会の審議の進行案の作成を行わせていただきます。それぞれの第1回の専門部会、2つに分かれておりますが、仮称で高齢者部会、もう1つは次世代部会という仮称がついておりますが、これはそれぞれの専門部会の第1回目の会議を9月中旬から下旬にそれぞれ行う予定です。その部会の中で部会長を互選で決定した後、今後の部会の進行を確認する形になります。その際に、専門部会、今は仮称ということで高齢者部会、次世代部会という名称がついておりますが、それぞれの部会の中で正式な名称を決めていただく形になります。

その後、第2回の専門部会では、改めて地域課題の洗い出し、または必要に応じて先進事例のリサーチなどを行ってまいります。2回の専門部会が終了した後、第2回

の企画部会を開催します。こちらでは、もうここで部会長さんそれぞれ1名ずつ決まっているはずですので、各部会の部会長さんも参加していただいて、委員長、副委員長、部会長という形で第2回の企画部会を開催したいと思います。その企画部会の中では第3回全体会の確認をさせていただきます。きょうのが第2回の全体会ですが、この次の全体会、第3回の全体会の内容を確認、検討させていただきます。そして、ことしの10月下旬から11月上旬にその次の全体会、第3回全体会を開催する予定ではあるんですけども、その際には2回ほど各部会が行われているはずですので、その審議状況を報告させていただきます。

第3回全体会以降ですけれども、こちらについては、さらにそれぞれの専門部会で報告を繰り返していただいて、このころから年度末に開催する区民会議フォーラム、年度末ですので、大体毎年3月に開催しているんですけども、そちらの区民会議フォーラムについても皆様のアイデアをいただきながら、企画部会が中心になって進めていく予定でございます。そして、年度末にはもう1つ、中間報告と第5回の区民会議は、2年間ですけれども、平成26年度、平成27年度ですが、中間報告として平成26年度の年度末に中間報告書というものを作成いたしますので、そちらの検討もしていくという形になります。それで今年度、平成26年度の活動を終了して、この第5期の2年目に引き継いでいくという形になっております。

以上が8ページの平成26年度、今年度の流れでございます。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。そういうことで、会議も大分半ばに入ってまいりまして、本日お忙しい中、竹田参与さんがお越しで……。すぐ戻ってこられると思いますので、青柳さん、言い足りなかったことがもしありましたら。

青柳委員 またしゃべっちゃいますけれども、自分なんかは宮前の中をバスを使わなくてちょっと散歩がてらに歩いてみると、えっと思うことがいまだにあるんです。それは、今まで農地だったところが本当に生産緑地からマンションに変わっちゃって、1年弱ぐらいで町がにぎやかになってくる。確かにマンションが建って、1つの建物の中には、今、身近なところにあるのが50世帯以上ですか、周辺にあるお店もやはり歩いて買いに行くような個人商店もありますので、地域にはかなりそういう新しい風が吹いてきているなど。それと同時に、生涯学習支援施設の館長なんかともお話を常日ごろやっているんですけども、お子さん連れの若いママさんが本を借りに来る機会が非常に多くなったと。ですから、本の貸し出しの増刷、貸し出す本も数量をふやして貸すとか、大分そういうところで時流に沿った物の考え方で形を変えていく、やはりそれは物の全てに値するんじゃないのかなと思いました。自分なんかもそういう変わり変わりのものに対応できるような気持ちの心構えというんですか、そういうものも持ち出して歩いていかなくちゃいけないなと思いました。

宮崎委員長 ありがとうございます。やはりちょっとした視点を変えることによって町

が大きく変わっていく、そういう意味では大変すばらしいお話かと思います。

それでは、竹田参与さん、済みません、一言二言、きょうはありがとうございます。

竹田参与 川崎市議会議員の竹田宣廣と申します。時間がありそうなので少し長々と、いろいろと皆様の貴重な御意見をいただきながら申し上げたいこともございますので、お話しさせていただきたいと思います。

私も宮前区で育ってまいりまして、いろいろ委員の方々からお話が出た、恐れながら私自身も次世代の者だと思います。今30前半でございまして、その中でその次世代の同級生が戻ってきているんですよ。子供ができておじいちゃん、おばあちゃんに子供を預けたり面倒を見てほしいということで、結構そういった同級生が多く、特に女性の同級生が戻ってきている。その中で、先ほどもお話がございましたとおり、盆踊りや夏祭り、自分の子供を連れて、自分が行った行事に参加をしていくということが、非常にこの近年、自分自身もそうですけれども、そう感じられるところです。

私も実は菅生の出身でございまして、委員からも御指摘があったとおり、菅生離れの話がありましたが、菅生戻りということも実感しています。しかし、それは数にしてみると、本当に10分の1か、そのぐらいかというぐあいがあります。菅生戻りにしても、やっぱり同級生からいただく意見としては、交通不便、菅生から稗原から駅に出るまで1時間弱かかるというところがありますので、ほかの委員の方からも御指摘がありましたとおり、交通不便の地域への対応、また、交通インフラ整備、またコミュニティバスの設置など、こういったことがこれからの地域の課題になってくるのかなと思います。

そしてもう1つ、そういった宮前区出身の方が宮前区に戻ってくるのと、もう1つ、新しく宮前区に住まれる方も多くございます。宮前区は東急田園都市線も走ってまして、交通の便も多くありまして、転出入者も多くあります。その転入してきた方が宮前区はいいなと思って、生涯ここに住もう、ふるさとにしようとするように思っただけのように、先ほど申し上げた交通不便への対応や交通インフラの整備、これは早急の課題だと思います。

そういったことも踏まえながら、地域行事、地域の伝統文化、また地域のコミュニティづくりも皆様のお力をいただきながらこれをやっていくということが本当に宮前区のこれから先の重要なことになっていくと思っております。それは本当にこの宮前区区民会議を中心としてやっていくのが望ましいと思います。

そして、冒頭にも委員からの指摘、委員長からのお話もありましたとおり、この区民会議が川崎市の傘のもとにあるのではなく、宮前区区民会議でこういった地元の意見があって区役所側が動く、区長を中心にして動く、そういった体系が必要だと思います。これは私は前区長とも川崎市本会議場でも議論を展開いたしましたけれども、

なかなか改善されません。新しい区長になって少し予算がふえたぐらいでありますので、本当に区長を中心に予算どりをさせていただいて、宮前区区民会議を中心とした、その宮前区の新しいコミュニティーづくり、また宮前区のあり方、まちづくりをやっ
ていかなければ、これから先、私が先ほど申し上げた宮前区の改善点は見出せない、
そこまでは言いませんが、その点、区長、また宮前区役所の方々にお願いしたいと思
います。

ぜひとも議論を活性化させていただいて、本当に皆様の意見が第一だと私は思っ
ておりますので、皆様の意見をいただいて私も本会議場で議論させていただくこともあ
りますので、今後とも何とぞよろしくお願いいたしたいと思います。

以上です。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。大変貴重な御意見、多々いただきまして、
それでは、私のリードの仕方がまずくて、川田副委員長さんと佐々木副委員長さんに
一言二言。

川田副委員長 済みません、お仲間に入れてください。私も一言二言お話しいたします。

私は、今度部会で高齢者ということで一緒に参加させていただきます。既に3期、
4期と高齢者問題は取り上げておりましたけれども、なぜそこでまだ高齢者なのかと
いうお話が出てきますよね。そのときに考えることは、確かに3期、4期でやって、
区のほうには提案としてお渡ししてある。区のほうもそれなりに区でできることは動
かれているというのは目の当たりにしておりますけれども、あとは実際動かなければ
いけない住民の動きというのがまだ余り活発化していないというところで、なかなか
問題が改善できないんじゃないかと思っております。

既に宮前区は本当に高齢者が多い区ということになってはいますが、先ほど申
し上げましたが、宮前区は元気な高齢者が多い区です。そしていずれ支援が必要にな
る方が、増えていくことが予想されます。今後保険給付である要支援サービスが地域
支援事業となったときに、現在の要支援利用者はご家庭過ごす時間が多くなると考え
られます。そのことに着目した地域支援を模索できればと思います。

笹川さんには芸能の部分で高齢者の方たちにどういったことができるかということ
を御意見をいただけたと思いますし、川畑さんからは以前、地域包括支援センターの
お話が出ていましたが、地域が一緒になって動くことで、包括の役割が生かせるとい
いと思います。これからいろいろ話が出てくると思いますが、どうぞよろしくお願
いいたします。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。

それでは引き続きまして、佐々木副委員長さん。

佐々木副委員長 佐々木でございます。ちょっと油断してはいましたけれども。私のほうは
魅力発信と次世代まちづくり部会に参加させていただきます。資料の6ページにもあ

ると思うんですが、魅力発信と次世代まちづくり部会、内容はこれから部会の中でいろいろ検討していくことになると思うんですけども、1つのまとめ方として、町の魅力発信をして観光の視点という記載がございますが、観光といったときに、誰が対象なのか、宮前区内の宮前区をまだまだ知らない最近入ってきた人たちなのか、あるいは宮前区の周辺の人たちなのか、あるいは最近インバウンドと呼ばれる海外から日本に来られる人たちなのかというところの視点もちょっとはつきりさせながら議論を進めていければいいのかなと思っております。

また、若者世代の流出も問題になっているようではございますけれども、若者もやっぱりいろいろイメージがあると思うんです。果たして私は若者に入っているのか、入らなくていいのかということもありますし、微妙なところではございますけれども、30代なのか、20代なのか、40代も含まれていいのかみたいな、そういうことを部会の中で、いろんな意見が多分出ると思うんですけども、その前提をはつきりさせないと、結構議論がごちゃごちゃしていくんじゃないのかなということがありますので、今は誰を対象にして話をしているんだというのを皆さんで共有しながらいろいろ議論を進めていければいいかなと思っております。

以上です。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。予定より20分ぐらい早目に終わりそうなんですけれども。どうぞ。

中里委員 先ほど竹田参与さんから予算のこともちょっとお話がありましたけれども、私たちが前回準備部会で大槻委員さんから予算のことを私も調べていただいて聞いたんですが、7区のうちで宮前区が断トツに少ない。人口を見てみますと22万と、大体遜色ないというか、皆さんもほかの区と同じような数なんです。どうしてこんなに少ないのかなということで、この宮前区区民会議で少しでも力になればと思っているんです。

ちょっと話は変わるんですけども、人口のことで、国勢調査を5年に1度やっていますけれども、その国勢調査の報告の最後のほうになりますと、川崎市の人口重心ということで報告がありますよね。一番近いところでは平成24年の12月に総合企画局から出ているんですけども、川崎市の人口重心というのは、川崎市が平らな土地というか板の面としたときに、1人1人の体重も同じと思って、そこに並んだときの、重なったときのどこか一点で重心がとれると思うんですけども、その地点なんです。それが宮前区の野川の445番地なんです。これは平成2年ぐらいから宮前区はずっと人口重心なんです。ということは川崎市のへそですよ。

人口重心の考え方といいますと、公共的な市役所とか皆さんが利用するようなものがそこに建つと、皆さん一番便利だろうという考え方らしいんですけども、それが予算と比べて、7区の中で予算が一番低いと。川崎市が長細いということで、そうい

う地形も関係するんだと思うんですが、やっぱりここで宮前区は頑張らないといけないんじゃないかなと、つくづく前回の大槻委員さんから予算を聞いて、これはまずいなと思ひまして。

その野川の重心のところから五、六百メートル離れたところに、時代はずっとさかのぼっちゃうんですが、武蔵国の橋樹郡衙の跡地があるんです。橋樹郡というと、大体今の川崎市だと言われてます。ですから、武蔵国の時代での橋樹郡衙というのは役所ですから、役所がそこにあった。ですから、昔の人は本当にそういう意味では今の人口重心の考え方を持っていてるんじゃないかなと。今考えると、宮前区が一番予算がないということです。ここで1つ、また高齢者問題にしる、活性化にしる、私たちは微々たる力だと思ひますけれども、頑張らなきゃいけないかなと思ひました。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。すばらしいお話で。

大槻委員 私も竹田参与に関連して、同級生が最近戻ってきているというような話なんですけれども、やっぱり宮前区というのは3つの地区に分かれているからそれで違うのかなと思うんです。私は菅生、向丘地区なんですけれども、我々の子供たちはこんな不便なところには住みたくないということで大体出て行くんですよ。帰ってこないですよ。だから、今お話を聞いたのと大分違うなというような感想があります。

それからお願いが1つあるんですけれども、準備会でもいろいろ川崎の都市計画マスタープランについてお話ししましたけれども、ここの第5部、計画の実現・推進方策という部がありますけれども、その中の3番、市民・行政との協働のまちづくりの推進という項目がございます。この間もお話ししましたけれども、この中に川崎市都市計画マスタープランについて、区民会議に情報の提供を行う取り組みも必要というようなことがうたってありますので、こういう席で一度やっぱり都市計画マスタープランの進行状況を報告していただきたいなというふうをお願いしたいと思います。

宮崎委員長 ありがとうございます。

本郷委員 今非常に皆さん難しい高尚なお話をされていたんですが、私は別の観点からちょっと話をさせていただきます。私らはここの中に参加されている人は大体70歳前後、僕らが12歳ぐらいのときは我々は知能指数は百二、三十、皆あったと思うんです。ところが、実際に今我々は幾つあるか、やってみたら、90をみんな切るんです。80台、このくらいのレベルなんです。それで何が問題が起きているか。駅の料金表を見て、お金を払って切符を買えない。実際に新しい駅に行って駅の中で特急券を買うのにもたもたしているのは我々です。我々の知能指数は90を切っているんです。この現実をみんなしっかり頭に入れて、まちづくりをどういうふうにしてやっていくのか、一体誰を対象にするのか、対象とするのは我々なんです。我々がもう弱者になっているということをしっかり認識してまちづくりをやっていかないと、我々が今この

勢いでパソコンだ、スマートフォンだ、いろいろなものが出ていますけれども、これは使いこなせない。この現実をどういうふうに解決していくか、ここがまちづくりのポイントの1つだと思うんです。

だから、この各部会で、高齢者部会、それからもう1つのまちづくり部会、1つ共通の認識をしていただけたら、知能指数を一体どのレベルでやっていくのか、これを専門家を招いて一度勉強してつくり直さないと、僕らは絵に描いた餅をまたつくることになる。

以上です。

宮崎委員長 ありがとうございます。大変貴重な御意見をいただきました。時間がまだ少しありますが、どなたか。

黒澤委員 今、本郷さんのお話を聞きまして、非常に応援したい意見だなと思いました。実は自治会というのは平均年齢がかなり上なんですけれども、私どもの菅生台自治会というところでは、平均年齢、先ほど70歳前後というから知能指数は90以下かなと。では、役員と役員でない方、私どもは65歳以上が33%、それから十五、六歳以下が16%という、半分以下が16歳以下なんですね。そういう方々は知能が高いんでしょうけれども、70歳以上の人たちが自治会の役員になっているわけですね。そうすると、自治会の役員の話のレベルは低いレベルで話している。それで先ほどの自治会の課題だなと言っております。その辺のところを討議しているのはそういう方々。

ところが、50以下ぐらいの方が役員で加わってくるんです。理事という方、私どもの班長さんとかほかの方は役員とその下のレベル、それは50以下ぐらいなんですね。その方々の意見というのは確かに違うんですね。なぜ違うのか。私どもが今スマホであるとかパソコンなんていうのは、70代を過ぎるとなかなかやる人が少ないんですよ。ところが、50以下ぐらいになると、もう当たり前ね。会議中にわからないところはたっただとやっているんですよ。会議の中で同じテーマを話していても、わからないところはさっさと調べてしまう。その辺のところが違うということ、課題の捉え方が違うなど。それから情報の収集の仕方が50代以下ぐらいになると物すごく違うなど。そういうところの違いを今自治会の活動を通じて実感しているところで、今の発言に同意いたします。

宮崎委員長 どうもありがとうございます。世代間交流の必要性みたいな話で。

ほかどなたかおられますでしょうか。

竹田参与 済みません、2度目となってしまって。大槻委員と中里委員からお話がありましたので、補足としてもう少しお話しさせていただければと思います。菅生に戻ってくるのは本当に一部の方なんです。本当に交通が不便でなかなかこっちに戻ってくる方もいらっしゃるなくて、申し上げたとおり10分の1ぐらいで。しかし、そういった方々をどんどんふやしていくために、やっぱりおじいちゃん、おばあちゃんがいる

から子育てに向いているからということに戻ってきている方々がほとんどなので、世代間交流をそういったことも踏まえて、これからそういった宮前区づくりができればと私は思っております。

それから、中里委員からお話がありました宮前区の予算の少なさ、これは投資的事業費と申しまして、前市長の阿部市政が行ったことで、私もこれは調べて、大槻委員から以前御指摘が宮前区民会議の場でありまして、私も議会で何度か指摘をさせていただいて、市長と議論してまいりました。川崎区では、阿部市政の投資的事業費、投資的事業費というのは、例えばインフラ、道路整備とか駅周辺の全体的な再整備、再開発とか、そういったインフラのところに費やされているところです。済みません、話が前後して。阿部市政のときの投資的事業費、川崎区では約3500億円、中原区では2000億円、宮前区では600億円と、宮前区はすごく低くなっているのが実態でありました。

これはなぜかと申しますと、前阿部市長に追及しても明言はしませんでしたけれども、理由としてはやっぱり地下鉄ですね。皆様も期待された部分ではありますが、地下鉄縦断、川崎市の地下鉄をやっている川崎市にも駅がいっぱいできて、そこでフォローできた部分がありましたけれども、結局最終で凍結してしまった部分もありますので、そういったところをやっぱり省みなければならないなど川崎市政も思っております。

改めて新福田市長にもこの点どう思いますかと私は議会で追及しました。宮前区の投資的事業費、インフラの部分が少ないなという部分、これから考えていきますよという、そういった答弁でもありましたし、また車座集会でもそういった御質問があっても、いまいち明確な答弁がなかったので、やっぱりこういった宮前区民会議を通じて、区長を通じてやっていくのが望ましい形だなと私は思いますし、また、私自身もこのことはすごく問題だと感じていますので、皆様の御意見をいただきながら、また議会でも追及をしていきたいと思っております。

済みません、長くなりましたが、以上です。

宮崎委員長 どうもありがとうございました。あとどなたかまだ、少し時間があります。

それでは、そろそろですか。先ほど佐々木副委員長さんから御説明いただきましたが、第5期の区民会議の1年目は来年3月の区民会議フォーラムをもって締める形になり、一般の区民の皆さんも参加していただき、区民会議の認知度向上と活動をしていただくためのものでもあります。意義のあるフォーラムを開催したいがために、委員の皆さんもどうぞいろいろよろしくお願ひいたしますということでございます。

それでは、本日の第2回区民会議の審議をこれで終了いたします。以降の事務連絡については事務局にお願ひいたします。よろしくお願ひします。

司会（岩佐） 宮崎委員長、ありがとうございました。

3 過去の区民会議提案の事業化等状況報告

司会（岩佐） 続きまして、次第にお戻りください。次第の3です。過去の区民会議提案の事業化等状況報告をさせていただきます。こちらについては事務局より御説明いたします。

事務局（小山） 企画課の小山と申します。よろしくお願いいたします。済みません、座って説明させていただきます。

お手元に資料、別紙2ということで、A4の横型のホッチキスどめの資料をお配りさせていただいております。こちらにつきましては、先般開催されました準備部会の中等で、委員の皆様から、過去の区民会議での提案がこれまでどのように事業化されてきたのか、また現状どのような状況にあるのかということで御意見等をいただきましたので、資料としてまとめさせていただいたものでございます。全て御説明をさせていただくと大変時間がかかりますので、幾つかかいつまんで御説明をさせていただければと思っております。

まず資料の1ページ目の一番上の段をごらんください。こちらについては、第1期の区民会議から御提言をいただきました地域ぐるみでの散歩、あとは体操活動等によって健康増進、また介護予防等へつなげていこうといったような御提言でございます。こちらにつきましては、その2つ隣の欄に事業概要ということでございますけれども、地域で公園体操を行うグループ、こちらの新規の立ち上げの支援ですとか、また既に立ち上がっているグループへ継続して活動を行っていただくための交流の場づくり等の取り組みの支援を行ってきたところでございます。

また、その公園体操等の取り組みをさらに広がりを持たせるために、区内のそれぞれの公園でどういった団体がどういった活動をしているかといったようなものをあらわした、いわゆる公園体操マップといったものを作成し、発行してきているところでございます。また、健康づくりといった部分につきましては、その3段目のところにもございますけれども、身近な健康づくり、また取り組み等についての情報を提供するような情報紙を発行してきたところでございます。これらの取り組みにつきましては、現在区としても取り組んでおります第4期の宮前区の地域福祉計画に基づいて現在も継続して取り組んでいる事業でございます。

また、1段下の取り組みをごらんください。こちらにつきましては、団塊の世代の方々の力を高齢者福祉の現場で活用していただいているかどうかといったような提案についてでございます。こちらにつきましては、いわゆるシニアライフ相談窓口、よろずシニア本舗といったことで、シニアの方がこれから地域活動をしたいんだけど、

どういったことができるだろうかといったような相談をお受けするような窓口を開設したりですとか、また、講演会等を開催してきたようなところでございます。こちらの事業につきましては、現状は、区の地域振興課にいきいき相談といったような相談窓口がございまして、こちらの窓口がその役割を担っているといったところで、現状としては事業は終了しているところでございます。

それでは、資料を1ページおめくりいただいて2ページをごらんください。2ページの下から3つ目の提案でございます。こちら第1期の区民会議からいただいた提案でございますが、地域の方が皆さんが気軽に立ち寄れるような、そして交流が進むような地域のたまり場を創出してはどうかといったような提案でございます。こちらにつきましては、2つ隣の事業概要の下の段をごらんいただければと思いますけれども、こちらにつきましては、地域交流スペースを鷺沼地区の町内会館に開きまして、地元の商店街の方々の御協力を見ながら、健康麻雀の教室ですとか健康教室等を開催してきたところでございます。こちらの事業につきましては、区の事業提案制度を活用しながら、徐々に地域主体での活動に移行してきたところでございまして、平成24年度からはNPO法人さんが単独で事業を担っていただいているといった状況でございます。

また、過去の区民会議提案の直近事業化の動きといたしましては、済みません、ちょっと行ったり来たりで申しわけないんですが、もう1度1ページにお戻りください。1ページ目の提案の上から3つ目のところに、市営住宅などにおけるひとり暮らし高齢者の見守りといったような御提言がございまして、こちらについては、これまでも各団地ですとか自治会等で見守り活動で実践してきていただいているところでございますが、昨年度からそういった取り組みを事例集といった形で冊子に取りまとめを行ってきたところでございます。今後は、こういった事例集を活用しながら、区内で実践されている取り組みを各地域に紹介することによって、その見守り活動の重要性の啓発を行って、その取り組みを広げていきたいと考えているところでございます。

また、その他の取り組みといたしましては、3ページをごらんください。3ページの一番下の段になりますが、第3期の区民会議の提案をいただいているものなんですが、効果的に情報発信等を行うことを通じて区民の方に愛着を持ってもらって、コミュニティへの参加を促していこうといった御提言でございます。こちらにつきましては、これまで平成24年度にみやまえ情報サポーターズ養成講座というものを開催いたしましたしまして、その受講者の方を中心に、平成25年度、みやまえ情報ラボ、こちらの委員の青柳さん、滝本さんが活動されている団体でございますが、そういった情報ラボが結成されたところでございます。こちらにつきましては、今年度、区内に転入されてきた方向けに発行しております情報紙「ぐるっとみやまえ」の改訂版を今年度発行

する予定となっているところでございます。

以上、非常に簡単ではございますが、これまでの提案の事業化の状況を御報告させていただきました。なお、今後、定期的にこういった形で事業化の状況、また進捗等について御報告させていただければと思っております。

以上でございます。

司会（岩佐） 次第の3については以上でございます。

4 その他の連絡事項

司会（岩佐） 続きまして、4のその他の連絡事項でございます。こちらも事務局より説明させていただきます。

事務局（小山） 最後に、引き続き小山から御説明させていただきます。今皆さんのお手元に別紙3ということで日程の調整表をお配りさせていただいております。先ほど佐々木副委員長から今後のスケジュール等について御説明がございましたけれども、まずは次回の第1回専門部会、あと第2回の専門部会、またその次に開催されます第3回の全体会について委員の皆様の御都合をお伺いしたいと思います。こちらの表に参加の御都合についてマル・バツをつけていただきまして、来週9月3日までに事務局に御提出をいただければと思います。

以上でございます。よろしく願いいたします。

司会（岩佐） 本日は長時間にわたり活発に御議論いただきましてまことにありがとうございます。

これをもちまして宮前区区民会議第2回全体会を終了させていただきます。皆様大変お疲れさまでした。

午後7時33分閉会